

# 平成28年度 消防防災科学技術賞の受賞について



## 調査 鑑識

### 予防部 予防課

消防防災科学技術賞とは、消防科学技術の高度化と消防、防災活動の活性化を目的として、総務省消防庁が消防防災機器の開発・改良及び原因調査事例報告等を募集し、表彰するもので、今年度、大阪市が応募した事例が優秀賞を受賞した。今回はその概要について紹介する。

#### ▼全国消防技術者会議

毎年、全国消防技術者会議が東京において開催されている。この会議は、全国の消防の技術者が消防防災の科学技術に関する調査研究、技術開発等の成果を発表するとともに、聴講者と討論を行うことを目的として、消防庁消防研究センターが主催となり実施しているものである。

#### 消防防災科学技術賞受賞者



今年度も、その中で平成28年度消防防災科学技術賞の表彰式が挙行された。本表彰制度は、平成9年度から実施されており、20回目となる今年度は、大阪市からは予防課（調査鑑識）の辻司令補と竹田士長が事例の応募をしたところ、優秀賞が授与され、全国の様々な事例にまじり事例発表を行った。

#### 【開催日】

平成28年11月16日(水) 表彰式  
平成28年11月17日(木) 事例発表

#### 【開催場所】

東京都港区 ニッシーホール  
(日本消防会館内)

#### 【消防防災科学技術賞受賞者】

#### 平成28年度消防防災科学技術賞

#### 優秀賞

予防課(調査鑑識)

消防司令補

消防士長

辻 明人

竹田 悟史



表彰式の様子

#### ▼ 発表事例

「ウォーターサーバーから出火、リコールに発展した事例」

#### 【火災の概要】

本件は3階建住宅の1階台所において、ウォーターサーバー1台(写真1)、天井側壁を若干焼損した火災である。

出火原因についてはウォーターサーバーからの出火した可能性があるため、鑑識を行うことが通常であるが、本件火災では、まず鑑識を行う時点で障壁があった。当該ウォーターサーバーについては当初所轄警察署に証拠品として押収されており、長期間にわたり製品鑑識を行えない状態が続いていた。しかしながら、製品火災の可能性が極めて高く、類似火災防止のためには詳細な製品鑑識を行い、出火原因を究明することが不可欠であり、鑑識の必要性を交渉した結果、警察、メーカー及び消防で鑑識を行うこととなった事案である。

#### 【鑑識状況及びその結果から】

鑑識は、高度専門教育訓練センター内の防災研究室で実施した。  
オゾン発生器を稼働するためには基板上のコンデンサが必要であり、X線撮影などを行い鑑識した結果、当該コンデンサが何らかの原因により絶縁